

別紙様式 1

平成 29 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	39	学校名	県立玉造工業高等学校				課程	全日制		学校長名	原 光広					
教頭名	永井 昭夫								事務長名	石川 信生						
教職員数	教諭	42	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	6	実習教諭 実習講師 実習助手	9	事務職員	4	技術職員等	3	計	75
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	工業に関する学科	152	9	/	/	/	/	/	/	152	9	5				
	機械科	/	/	78	2	74	3	/	/	152	5	4				
	システム工学科	/	/	/	/	20	0	/	/	20	0	1				
	機械・エネルギー科	/	/	23	1	/	/	/	/	23	1	1				
	電気科	/	/	40	0	39	1	/	/	79	1	2				
情報技術科	/	/	25	2	24	4	/	/	49	6	2					

2 目指す学校像

至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能及び技術を習得させる。また、すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努め、社会の発展に寄与する産業人を育成する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
教 務	基礎学力の向上を図るため、数学Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、国語総合で習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着に努めているが、学習意欲の向上や家庭学習の習慣化には至っていない。そのため、進級はできたが成績不振で単位未修得の生徒が10名を超えている。進路の目標が持てず、将来像が描けないことから課題を見出せない生徒が多くいる一方で、資格取得やものづくり競技会で優秀な成績を収める生徒もいる。 基本的な生活習慣の確立ができず、欠課時数過多による保護者同席の欠課指導を受ける生徒が20名を越えている。	・本年度は数学Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅰに加え、国語総合とコミュニケーション英語Ⅱにおいても習熟度別授業を実施し、よりきめ細かな指導を行い、基礎学力の向上と定着を目指す。 ・学習内容の精選や指導の工夫を図り、自ら学ぶ主体的な授業態度を育むとともに、対話的で深い学びに繋がる授業を展開する。また資格取得に向けた補講を行い、生徒に明確な進路の目標を持たせることで、学習に対する関心や意欲の向上とともに家庭での学習の習慣化を目指す。
生徒指導	特別指導件数はほぼ横ばい傾向であるが、重大案件は減少傾向にある。コミュニケーション能力が低く、他人に対する思いやりの気持ちが欠け、自分の感情をコントロールできずに喧嘩やSNSでの問題行動も発生している。また、規範意識の低さが故に、その場の雰囲気や気の緩みで社会の規則や学校の校則を守れないケースも多い。交通では、大きな事故は無かったが登校時の事故件数は増加し、登下校時のバイクの乗り方に対する外部からの苦情もある。最近では、スマートフォン関連の事案（SNSを含む）もあり、情報モラル教育も課題である。「遅刻指導」「服装・髪型指導」を含め、基本的な生活習慣の確立、規範意識を身につけさせるため、日頃から気付いたときに指導する必要がある。	・「安全・安心・楽しい」学校づくりを継続し、基本的な生活習慣・規範意識の確立を目指す指導を行う。 ・「バイク通学者実技講習会」・「ベストライダーコンテスト」など交通安全教育を継続し、生徒の交通安全意識の向上を図る。 ・いじめの早期発見・未然防止のため、生徒観察や声かけ、アンケートの活用など全職員による指導体制の構築。
進路指導	就職に関しては、昨年度同様求人増加に伴い、学校推薦を希望したほとんどの生徒は内定を頂くことができた。しかしながら、学力不足により、1回目の応募に対しての内定率は昨年度より低下しており、今後さらなる基礎学力の向上が必要である。また、縁故等を利用して就職を希望する生徒の多くが、進路未決定のまま卒業しており、昨年度調査した、卒業後3年の定着率向上と併せて、早期からの就業意欲や職業理解の向上を図る必要がある。進学に関しては、昨年度センター試験を受験した生徒や一般入試で合格した生徒など、推薦入試に頼らない生徒もでてきているが、担任の負担が大きく、進路指導部として何らかの支援策を考えていかなければならないと考える。 昨年度の保護者からの学校評価アンケートにおいて、進路に関する指導が適切に行われているかという項目について、「わからない」と回答している保護者の数が増えており、今後保護者に対しての進路指導に関する説明や指導内容の明確化が大きな課題であると考えている。	・キャリア教育の推進に努め、就業意欲や職業選択能力等の向上を図る。 ・企業訪問や公共職業安定所との連携強化等を行い、新規求人企業の増加を目指す。 ・基礎学力の向上など入社試験対策を行い、就職内定率100%を目指す。 ・進学希望生徒の学習意欲を向上させるとともに進学希望先から詳細な情報収集を行う。 ・進学者（一般受験）に対する支援を他の校務分掌と連携を図り、その具体的方策を示す。 ・保護者に対する進路情報の発信や進路講演会などの充実を図る。
学習指導	義務教育段階で身に付けるべき計算力・漢字力が身に付いていない、または授業を受ける態度や姿勢などが習慣化されていない生徒がいる。朝のSHR後の10分間を1・2年生は読書の時間、3年生は基礎学力向上の時間に充てている。多くの生徒が静かに本を読んでいる。平成28年度図書館来館者（昼休みと放課後）数は、27年度と同様に少ない。進学希望者のための課外授業を実施しているが参加者が少ない。その反面、資格取得講座の補習については積極的な参加者が多くみられるのは例年通りである。	・きちんと授業を受ける習慣を身につけさせるとともに、義務教育段階の基礎学力定着に努める。 ・シラバスを科・コース選択時以外で多く活用し、生徒が授業に興味・関心を抱くように努める。 ・図書館から引き続き情報を発信し、図書館へ足を運ぶ機会を増やす。 ・生徒向け図書を増やしたり、ミニ館報などを用いたりして、生徒の来館数を増やす。 ・課外については進学試験だけでなく、就職試験や検定試験も視野に入れ、生徒に積極的に参加をアピールする。
保健厚生	近年、教育現場においても、様々な災害・事故が想定される。本校でも、各部署と連携・検討を行い、防災体制の確立と火災・地震の事態に備えた準備・訓練を行ってきた。しかし今後、竜巻・洪水・原子力災害等の各種防災体制の確立と、現在の内容をより効果的なものとする必要がある。 生徒の多様化に伴い、特別な支援を要する生徒も増えている。引き続き個に応じた支援ができる体制を維持していく必要がある。	・各部署との連絡を密にし、事故・災害に迅速に対応出来る体制を確立する。 ・年2回実施している防災避難訓練の実施内容を検討する。 ・学年や教科と連携し、支援が必要な生徒に早く気づき、適切な支援を行う。 ・竜巻・洪水・原子力災害等の防災マニュアルを作成する。
渉 外	保護者のPTA活動に対する関心が低く総会の出席率も低い。広報誌などを通し関心を高めたり、研修旅行などで、お互いの交流を深めることでPTA行事への参加率の増加を目指している。また、生徒の登下校の利便性や安全の確保のためチャーターバス運行の運営をしている。しかし、運賃の値上げにより運営が厳しい状況となっている。また、保護者の協力を得て登下校時に立哨活動をして、生徒のマナー向上を目指している。	・PTA活動への保護者の関心を高め、各行事への出席率を高める。 ・PTA行事を通じて保護者とのコミュニケーションを深める。 ・生徒の通学上の安全や利便性を確保するために、チャーターバス運営に協力する。
特別活動	遠距離通学の生徒が増加し、放課後や休日の部活動参加が難しい生徒が多い中、部活動加入率は上がっている。今後とも加入率の向上を目指すとともに、部員の定着率も向上させる必要がある。 文化祭・各種行事に前向きに参加する生徒の姿勢が見られた。特にボランティアに参加する生徒が増えた。本校主催の交流事業を行うとともに、地域の事業に積極的に参加し、ある程度の学校評価や広報効果が得られた。	・部活動への加入率・定着率を上げる。 ・部活動の活性化を図る。 ・各種行事の実践に努め、生徒の集団内でのあり方を考えさせる。 ・ボランティアなどの奉仕活動の機会を増やす。

4 中期的目標

- ・基礎学力の向上を図る。
- ・基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。
- ・学校の教育活動全般をとおして、キャリア教育の充実を図る。
- ・部活動や特別活動を充実させる。
- ・地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
分かる授業を展開し、基礎学力の向上を図る。	① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。 ② 各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。 ③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。 ④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。 ⑤ 資格取得指導の充実を図る。 ⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画実施する。 ⑦ タブレット端末を活用した授業の開発を推進する。
基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。	⑧ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。 ⑨ 頭髪や服装等を正そうとする意識を身につけさせる。 ⑩ 社会人として必要な公共のマナーを身につけさせる。 ⑪ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。 ⑫ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。
望ましい勤労観や職業観の育成に努める。	⑬ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。 ⑭ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話などキャリア教育の充実を図る。 ⑮ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。
学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。	⑯ 学校行事を通して生徒と保護者や地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。 ⑰ 部活動加入率を高め、活性化を図る。 ⑱ 奉仕体験活動を充実させる。 ⑲ 生徒の委員会活動を活発にする。
中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	⑳ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実させる。 ㉑ 小中学校への出前授業を行う。 ㉒ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。 ㉓ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。 ㉔ 個人情報保護の徹底に努める。
安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。	㉕ 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りに努める。 ㉖ 安全で衛生的な環境作りを努める。 ㉗ 不測の事態に備え、防災意識を高める。